

《ヒアリング対象事業(5事業)》

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度	平成22年度達成度	平成23年度達成度
6 環境・まちづくり	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)				
	49-3	教育ファームの実施	外部評価	外部評価	外部評価
			b	b	b-
			内部評価	内部評価	内部評価
b	b	b			
7 経済・雇用	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)				
	54-3	戦略的企業誘致	外部評価	外部評価	外部評価
			b	b+	b
			内部評価	内部評価	内部評価
	b	a	b+		
	54-4	産学連携によるイノベーション創出	外部評価	外部評価	外部評価
			b	b+	b
			内部評価	内部評価	内部評価
	b	b+	b		
	55	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。(4年以内)	外部評価	外部評価	外部評価
b			c+	c+	
内部評価			内部評価	内部評価	
b	c+	c+			
コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(4年以内)					
57-1	コミュニティビジネス育成事業	外部評価	外部評価	外部評価	
		b	b	b-	
		内部評価	内部評価	内部評価	
b	b	b-			

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c , d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-3	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 （教育ファームの実施）	4年以内	・平成24年度末までに、すべての市立小・中学校で、学校教育ファームを実施（見沼たんぼ内は、小・中学校あわせて50校）します。	①学校教育ファーム小学校34校、中学校9校 （累計小学校100校、中学校25校） ②見沼たんぼ内における学校教育ファーム実施 小学校15校、中学校8校 （累計小学校25校、中学校10校）	①△小学校36校、中学校36校 （累計小学校102校、中学校52校） ②▼小学校2校、中学校0校 （累計小学校12校、中学校2校）	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと思いますが、子供達が何を感じたか知りたい部分です。	長野委員	b	内部評価は概ね妥当と考える。
河西委員	b	田畑管理の困難さが未達成の原因ならば、H24目標は下げずに年月と経験で超えてください。教育ファームの取り組みは長いスタンスで継続してください。各学校生の感想文などありますか。（アンケートではなく）	橋本委員	b-	見沼たんぼ内における教育ファームの未達を減点しました。事業実施への取り組みの本気度が問われます。
木島委員	c-	見沼たんぼ内の教育ファームが大幅に未達（実績2校/目標23校）な上、4年間の目標も未達の見込み。この部分ではd評価と考えるが、学校教育ファームが目標を上回ったため、c評価とする。 ただし、昨年度も未達のプランであり、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	b-	見沼たんぼ内での取り組みが進まない点を減点。この理由を検証した上で必要があれば今後の目標設定を再検討する必要があるのではないかと
栗原委員	b-	学内の方は目標を上回っていますが、本事業のキモは見沼たんぼ内での実施かと考えます。よってマイナス評価としました。	福崎委員	b-	見沼たんぼ内での実施の難点を十分に把握出来なかったのか、下方修正しても当年度目標が達成されなかった点。
須藤委員	b-	1. 全体では目標を達成したが、見沼たんぼの学校教育ファーム実施が大幅未達であり、マイナス評価。 2. 見沼たんぼに対する小・中学生の関心を高めるためにも、促進を図るべし。	星野委員	c	見沼たんぼ内における学校教育ファームの目標が大きく下回った為「c」と評価します。
高木委員	b-	学校教育ファームは目標を上回ったが、見沼たんぼ内における学校教育ファーム実施が目標値を大幅に下回ったため。	町田委員	b-	市内全域での数は達成されたものの、見沼たんぼでの実施数が少ないことでマイナス評価。 施策49として考えると見沼たんぼだから意味のある施策とも思える。
高島委員	d+	②に関して、目標と比べ大幅な遅れがあるので、①について目標を上回ったので加点。 内部評価の「工程表どおり進捗」とは何を持ってそう言っているのか？？？	三浦委員	c+	見沼田圃内の教育ファームが目標を大きく下回っている。見沼田圃を活かすという政策的目的もあるはずであり、c評価とする。 一方、市内全域での教育ファームは概ね工程通り進んでいるので、見沼田圃での遅れをカバーする工夫がなされていると見て加点要素とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-3	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 （戦略的企業誘致）	4年以内	・平成24年度末までに、雇用機会の創出を図るため積極的な企業誘致活動を展開し、平成20年度の立地件数16社から40社増やし、56社とします。 ・平成21年度中に、産業集積拠点の基礎調査を実施した後、将来にわたる雇用機会の創出に向けた戦略的な企業誘致施策を検討します。	①企業立地10件 ②新たな産業集積拠点の創出に向けた継続的検討 ③（仮称）メディカル・リサーチパーク構想の策定	①△企業立地実績11件（外資系企業1社含む） ②リスク・コスト軽減に向けた官民連携スキーム構築の実現可能性を確認 ③さいたま医療ものづくり都市構想の策定	b+	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断し、企業立地実績などが工程を上回って進捗したことから加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b+	目標を上回る企業立地件数を実現。 ※官民連携スキーム構築におけるヒアリング対象事業者の内容は把握できず。
河西委員	b+	医療ものづくり都市すばらしいです。	橋本委員	b+	内部評価に準じました。
木島委員	b	企業立地達成+1は評価できるが大幅に目標を上回ったとはいえず、昨年度のような成果（医療機器産業への参入支援拠点創出）はみられないため目標通りの進捗と考える	廣瀬委員	b	概ね目標通りの成果。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	—
須藤委員	b	1. 概ね工程表どおりの進捗と判断する。 2. コストパフォーマンスに留意した企業誘致活動が肝要。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b+	企業立地実績が目標を上回ったため加点評価した。また、さいたま医療ものづくり都市構想は将来の雇用機会の創出に貢献するだけでなく、今後さいたま市の強みになり、さいたま市を印象づける良い機会になると思う。	町田委員	b	企業誘致10件を上回ったことの評価。 継続的にその地で活動できる企業の誘致の選定などに課題はあるが、財政状況への解決や活気ある街づくりへ向けて質の高い企業の誘致を希望します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b+	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-4	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 （産学連携によるイノベーション創出）	4年以内	・平成23年度末までに、産学連携によるイノベーション（技術革新）の継続的創出が図られる仕組みを構築します。	①研究開発人材高度化タスク フォース事業3件 ②目利きサポートの実施 ③企業間の技術マッチング支援 40件	①△研究開発人材高度化タスク フォース事業4件 ②目利きサポートの実施 ③▼企業間の技術マッチング支 援31件	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	高度な人材開発等であり、内容の判断が難しい。（具体的内容）	長野委員	b	概ね工程表通りと判断しますが、以下の点を確認させてください。 1) 国の競争的資金獲得は5件中1件でした。これは、「業界」的には高い水準といえるのでしょうか。標準的なのでしょうか。 2) 個票にある産学連携マッチング31件と企業間技術マッチング31件とは本質的に別物と解釈できます。同一のものなのでしょうか。
河西委員	b	技術マッチング支援が目標どおり進むことを期待します。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	c	企業間の技術マッチング支援が未達（実績31/目標40=77.5%）。なお、人材高度化タスクフォース事業は前年に5件達成している案件であり、実績4件（目標3+1）で目標を上回ったとはみれない。	廣瀬委員	b-	マッチング支援が目標を下回っているため、減点。
栗原委員	b-	—	福崎委員	b-	社会・経済状況の影響はあるが、目標に対してマッチング支援が伸びなかった点。
須藤委員	b	概ね工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	c	企業間マッチング支援が目標を下回った為「c」と評価します。
高木委員	b-	研究開発人材高度化タスクフォース事業が一件目標を上回ったが、企業間の技術マッチング支援が9件目標を下回ったため減点評価した。	町田委員	b-	企業間との人材交流を実施した件数については予定どおりと評価します。技術マッチング数の目標数をみだしていないのでマイナスとします。 企業間のマッチング支援は、これからの会社経営のあり方として発展していくことが期待されます。先駆的な取り組みとして今後の発展に期待します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b-	概ね工程通りだが、企業間の技術マッチング支援は目標40件を9件下回ったので減点要素とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	55	市内の観光資源を有効活用し、海外も含め、観光客を積極的に誘致します。	4年以内	・平成24年度末までに、平成19年度の年間入込観光客数の増加41万人を82万人に倍増し、総計2,477万人とします。 ・平成23年度中に、新たな観光客を獲得するため、スポーツコミッションを創設します。	①入込観光客数2,395万人 ②スポーツコミッション3月創設 ③観光振興懇話会4回開催、提言書受理 ④回遊性向上のための観光サイン整備 (案内看板3基、誘導サイン2基)	①★入込観光客数(見込み)2,131万人 ②△スポーツコミッションの10月創設・活動開始 ③さいたま市観光振興懇話会4回開催・提言書の受理 ④△観光ルート看板整備(案内看板4基、誘導サイン4基)	C+	・平成23年度の実績が数値目標を大きく下回ったので「c」と判断し、スポーツコミッションが目標より半年前倒して活動を開始したこと、目標を上回る観光サインを整備したことから加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	観光客が少なかった事による	長野委員	C+	仮評価で「C+」とします。 ※平成23年度より年間入込観光客数の算定方法が変更と報告されています。目標設定時の算定方法と実績における算定方法は同一のものか、確認させてください。
河西委員	C	目標未達成の見込みなら、観光プランを根底から見直し作り変える必要もあるのではないのでしょうか。ここはさいたま市です。ビッグゲームもアーティストをお招きすることももちろん大切ですが毎日毎日サッカー、コンサートってわけにも行かないです。コンスタントに人が訪れる観光スポットやレジャーイベント、たとえば、とーふラーメンを食べにいく家族、返りに寄りたくなる人形会館とか。	橋本委員	C+	内部評価に準じました。
木島委員	C+	目標観光客数が未達。ただし、スポーツコミッションへの取り組み、成果は観光客増への期待が持てるもので、加点評価とする。H24年度は観光客数を大きく増加させて欲しい。	廣瀬委員	C	目標値を下回る実績だが、震災の影響などをどう評価に反映するか難しい論点である。とりあえず、状況は評価に反映せず、数字のみにて評価するとc
栗原委員	C+	—	福崎委員	C	観光PR策が、もっと増やせるのではないかとと思われる点。 今期の結果から、目標を下方修正されている。来期の達成(観光客数の増加)に期待。
須藤委員	C	1. 市の観光資源を再点検し、それらを有機的に関連させた取組を図るべき。 2. スポーツに偏るのではなく、文化・芸術、グルメ等、中高年にもスポットを当てる工夫が必要。	星野委員	C	目標を下回る評価とします。
高木委員	C+	入込観光客数が目標を下回ったため「c」と判断し、スポーツコミッションの10月創設・活動開始と観光ルート看板整備が目標を上回ったため加点評価した。	町田委員	b-	目標とした計画には達していない。 さいたま市を観光都市として位置づけるのが現実的な施策なのかは大いに疑問。見沼地区やスポーツ施設など、誇れる地域はあり、行政施策やまちづくりのモデル地区としてPRすることは、有効。それが観光資源になるかはイメージが正直持てない。
高島委員	C+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	57-1	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。 (コミュニティビジネス育成事業)	4年以内	・平成23年度末までに、コミュニティビジネスを育成するため、新たな支援制度を構築します。	①コミュニティビジネス個別相談会2回開催 ②コミュニティビジネストークカフェ3回開催 ③コミュニティビジネスニュースレター発行	①CB個別相談会2回開催 ②CBトークカフェ3回開催 ③CBニュースレター1回発行	b-	・平成23年度の数値目標、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断し、支援体制構築に向けた、支援機関における情報共有の仕組みづくりを実現できなかったことから、減点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断(アイデア募集?)	長野委員	c+	年度途中で事業目標の一部変更(断念)が発生している。
河西委員	b-	未達成の見込みのため。目標達成のための試みはありますか。たとえば、アイデアは夏休みの課題とか。	橋本委員	b-	内部評価に準じました。
木島委員	c-	プランの工程表の事業6件に対し、進捗がみられない(達成率0%=実績0/目標6)ため未達。かつ、前年に稼動していた事業4件が見直しとなり、それに代わる事業も見当たらず、マイナス評価。	廣瀬委員	b-	一応工程表通りに実施されているが、構想したモデル事業の実施が困難になるなど、実体的に困難な課題があるのではないかと。
栗原委員	b-	—	福崎委員	c-	—
須藤委員	b-	全般的に活動が低調。予算措置も含め、もう少し腰を入れてもよい事業と考える。	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定どおりの進捗と判断 地域により密着した事業とし、市内で起業するだけでなく、その事業活動が市民の生活に密着したものとなるような支援をするように、起業サポートを充実していただきたい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	c	新たなモデル事業(空き店舗活用による高齢者の生きがいづくり支援)に、取り組む以前に撤退している。 当初計画を、実現性を勘案して路線変更しているが、CB育成は困難な課題に取り組む環境整備を進めることそのものであるはず。安易な「相談体制」や「支援者の交流」などでお茶を濁すくらいなら、行政が取り組む意味がどれほどあるか疑問。

「しあわせ倍増プラン2009」委員評価取りまとめ一覧（第4回市民評価委員会(6月29日)開催分）

≪ヒアリング対象外事業(28事業)≫

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度	平成22年度達成度	平成23年度達成度		
6 環境・まちづくり	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)						
	48-1 公園の芝生化	外部評価		外部評価		外部評価	
		内部評価		内部評価		内部評価	
	48-2 学校の芝生化	外部評価		外部評価		外部評価	
		内部評価		内部評価		内部評価	
	48-3 保育園の芝生化	外部評価		外部評価		外部評価	
		内部評価		内部評価		内部評価	
48-4 学校の緑のカーテン	外部評価		外部評価		外部評価		
	内部評価		内部評価		内部評価		
48-5 公共施設・家庭の緑のカーテン	外部評価		外部評価		外部評価		
	内部評価		内部評価		内部評価		
48-6 公共施設の緑化	外部評価		外部評価		外部評価		
	内部評価		内部評価		内部評価		

「しあわせ倍増プラン2009」委員評価取りまとめ一覧（第4回市民評価委員会(6月29日)開催分）

≪ヒアリング対象外事業(28事業)≫

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度		
			外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	
6 環境・まちづくり	48-7	民間建築物の緑化	外部評価		外部評価		外部評価		
			a	a	c	C+			
	48-8	花と緑でいっぱい・区の花の制定	外部評価		外部評価		外部評価		
			b	b	b	b			
	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)								
	49-1	見沼基本計画の策定	外部評価		外部評価		外部評価		
			b	b	b	b			
	49-2	歴史的遺産・自然環境の活用	外部評価		外部評価		外部評価		
			b	b+	b	b			
	49-4	市民農園の整備	外部評価		外部評価		外部評価		
b			b+	b	b				
49-5	東宮下調節池の広場整備	外部評価		外部評価		外部評価			
		b	b	b	b				

「しあわせ倍増プラン2009」委員評価取りまとめ一覧（第4回市民評価委員会(6月29日)開催分）

＜ヒアリング対象外事業(28事業)＞

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度		
			外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	
6	環境・まちづくり	49-6 高沼用水路の整備	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 C	内部評価 C	
7	経済・雇用	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(すぐ)							
		53-1 セーフティネットの構築	外部評価 b+	内部評価 b+	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 a	内部評価 a+	
			53-2 ステップアップの取組	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 a	内部評価 a
		介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)							
		54-1 ものづくり企業支援事業	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 b-	内部評価 b-	
			54-2 テクニカルブランド企業認証事業	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 a	内部評価 a	外部評価 a	内部評価 a
				54-5 新規就農者支援事業	外部評価 C+	内部評価 C+	外部評価 b	内部評価 b	外部評価 a

「しあわせ倍増プラン2009」委員評価取りまとめ一覧（第4回市民評価委員会(6月29日)開催分）

＜ヒアリング対象外事業(28事業)＞

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度		平成22年度達成度		平成23年度達成度	
			外部評価	内部評価	外部評価	内部評価	外部評価	内部評価
7 経済・雇用	54-6	事業所内保育施設推進事業	外部評価		外部評価		外部評価	
			内部評価	b	内部評価	b	内部評価	b
	54-7	介護福祉士資格取得支援	外部評価		外部評価		外部評価	
			内部評価	c	内部評価	c	内部評価	b-
	54-8	ホームヘルパー2級資格取得支援	外部評価		外部評価		外部評価	
			内部評価	b	内部評価	c	内部評価	b
54-9	福祉介護人材の養成確保	外部評価		外部評価		外部評価		
		内部評価	b+	内部評価	b	内部評価	b	
54-10	ものづくり人材支援事業	外部評価		外部評価		外部評価		
		内部評価	b	内部評価	b	内部評価	b	
54-11	マッチング事業	外部評価		外部評価		外部評価		
		内部評価	a	内部評価	a	内部評価	a	

「しあわせ倍増プラン2009」委員評価取りまとめ一覧（第4回市民評価委員会(6月29日)開催分）

≪ヒアリング対象外事業(28事業)≫

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	平成21年度達成度	平成22年度達成度	平成23年度達成度	
7 経済・雇用	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)					
	56-1	人材育成支援	外部評価		外部評価	C
			内部評価		内部評価	
	56-2	創業環境支援	外部評価		外部評価	C+
			内部評価		内部評価	
	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(4年以内)					
	57-2	コミュニティビジネス促進事業	外部評価		外部評価	b
			内部評価		内部評価	
	58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。(4年以内)	外部評価		外部評価	b
			内部評価		内部評価	
59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。(4年以内)	外部評価		外部評価	b	
		内部評価		内部評価		

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-1	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどりの倍増プロジェクト」を実施します。 (公園の芝生化)	4年以内	・平成24年度末までに、芝生のある公園が各区2か所以上となるよう14公園増やし、26公園とします。	①3公園を芝生化 ②管理費の軽減について検討	①☆7公園を芝生化 ②宮原東口公園の芝生管理を地元自治会と協働で実施。	a	・平成23年度の主な目標大きく上回る、7公園を芝生化したことを評価して「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標に対し、増となった為	長野委員	a	目標数を上回る芝生化が行われた。
河西委員	a	芝生化すると管理は必ずついてくる問題ですが芝生化＝経費増加にならない方法も検討してください。	橋本委員	b+	公園の芝生化の達成を加点評価しました。芝生化した公園の管理に関する対応が急務と考えます。
木島委員	a	達成率233%(実績7/目標3)、一部協働管理を評価	廣瀬委員	a	目標を明確に上回る整備が実現されている。
栗原委員	a	芝生は維持管理が難しいと聞きますので、管理体制の早急な整備が必要と考えます。	福崎委員	a-	管理費の軽減が協働の目的ではないとのこと。しかし、取り組み内容の記載からは、逆に軽減のために協働を促進するように受け取れ、やや疑問を感じる。
須藤委員	a	目標を大幅に上回ったため	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	7公園を芝生化し、目標値を大きく上まったため。	町田委員	a	3ヶ年に渡って目標値を上回っている。居住環境の良好な確保のためにも整備をお願いしたい。手間のかかる芝生化については疑問がある。地域との協働を前提としての芝生化の決定は慎重にお願いしたい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	予定を大きく上回った。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-2	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどりの倍増プロジェクト」を実施します。 (学校の芝生化)	4年以内	・平成24年度末までに、芝生化した学校が各区2校となるよう14校増やし、20校とします。 ・平成22年度末までに、市民との協働や民間企業からの技術支援などの地域社会との連携による芝生維持管理システムを構築します。	①新規4校、前年度未完成2校の芝生化 ②芝生維持管理システムによる管理	①新規4校、前年度未完成2校の芝生化 ②芝生維持管理システムによる管理	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りの実施	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b+	芝生化に取り組も場合、管理が課題になりますが職員の負担増とは捉えず、教育ファームの事業同様、土の作業に馴染んでください。	橋本委員	b-	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。芝生の維持管理対策が急務と考えます。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	維持管理や、養生のための子どもたちの利用制限がかかる日数など、運用上の課題の洗い出しが必要。
栗原委員	b	事業コスト等の面から考えれば仕方の無い事だとは思いますが、芝生化の対象はやはりグラウンドにすべきと考えます。	福崎委員	b-	事業費の内訳が不明な点。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	目標通りの進捗状況と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b+	目標数値を達成していることより、評価。ただし芝生の手入れは相当の労力を使う。教育として児童や生徒にメンテをさせる工夫や校庭を地域に開放し地域で実施させてもよい。運動の確保の場と芝生化は相反するので調整が必要。市民にも開放された校庭とするならばもっと有意義。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b-	整備は工程通り進んでいるようだが、教員の負担が増えているという課題は軽視できない。減点要素とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-3	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (保育園の芝生化)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての公立保育園（62園）の園庭を芝生化します。 ・平成22年度末までに、市民との協働や民間企業からの技術支援などの地域社会との連携による芝生維持管理システムを構築します。	①公立保育園20園の園庭の芝生化実施 ②芝生維持管理システムによる芝生の管理	①公立保育園20園の園庭の芝生化実施 ②芝生維持管理システムによる管理	b	・平成23年度の目標どおり、公立保育園20園の芝生化を実施したため、「b」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りの実施	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	学校同様に管理の課題がともないますが、ボランティアやシルバー世代の力など活用できないでしょうか。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	維持管理や、養生のための子どもたちの利用制限がかかる日数など、運用上の課題の洗い出しが必要。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	芝生の養生期間中、立ち入れないこと、その期間が長いことなど、利用者の声から不満点も把握されている。緑化プロジェクトへの理解を広げると共に、現場訪問の継続など丁寧なアフターフォローを期待。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	目標通りの進捗状況と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b-	目標数値を達成していることより評価。ただし、保育園の天然芝の緑化は園庭の規模からも意味が見出せないからマイナス評価とした。緑を増やすならば壁面緑化などの方が通風や日差し低減の点でも他の方法があると考え。遊び盛り・運動盛りのこどもに天然芝生庭園は、外で遊ぶ機会を奪うことにならないことを願う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-4	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどりの倍増プロジェクト」を実施します。 (学校の緑のカーテン)	4年以内	・平成24年度末までに、すべての市立学校で緑のカーテン事業を実施します。	①既設小学校30校、中学校20校、特別支援学校1校、新設小学校31校、中学校19校において実施 ②(仮称)緑のカーテンコンテストの実施方法について検討	①☆111校(小学校71校、中学校39校、特別支援学校1校)において実施 ②学校の緑のカーテンコンテスト実施方針の決定	a	平成23年度の数値目標を上回って小学校で新規に41校で実施したことを評価して、進捗度を「a」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回った為	長野委員	b+	目標数を10校(全体割合で+10%)上回る実施を実現。カーテンコンテスト実施方針の内容および決定過程への市民の参加は把握できず。
河西委員	a	とてもいい調子で実行されてきていると思います。	橋本委員	b+	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。数値目標をクリアしているが、目立った改善や取組とは判断できなかったため、+評価にしました。
木島委員	a	新設小学校達成率132%(実績41/目標31)を評価	廣瀬委員	a	費用の縮減を図りながら目標以上の実施を実現している。
栗原委員	a	—	福崎委員	a+	事業促進のための付加事業が検討・実施されている点。
須藤委員	a	1. 数値目標の大幅な超過達成を評価する 2. 事業費も低く抑えられており、コストパフォーマンスもよい	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	111校において実施し、目標を上回ったため。	町田委員	a	23年度にあっても目標数値を大きく上まったための評価。整備費用は低額で緑を創出できることに加え、緑の蒸散作用による空調費用の縮減にも効果がある。理科の教材としても有効活用できる壁面緑化は環境教育としても有益。部分的でなくもっと大規模な壁面緑化としてのモデル校があってもいい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	社会背景もあつたと思われるが、工程を大幅に上回って進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-5	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどりの倍増プロジェクト」を実施します。 (公共施設・家庭の緑のカーテン)	4年以内	・平成24年度末までに、緑のカーテン事業を実施する身近な公共施設を100か所に増やします。 ・平成24年度末までに、緑のカーテンづくりに取り組む家庭を2,000家庭にします。	①公共施設での実施30か所 ②家庭での取組500家庭 ③緑のカーテンサポーターの募集 ④取組の公表 ⑤講習会の開催	①☆公共施設71か所 ②☆家庭1,139家庭 ③緑のカーテンサポーターの募集・支援 ④市ホームページで公表 ⑤講習会:受講者190名	a	・平成23年度の数値目標である公共施設30か所、家庭の取組み500家庭を大きく上回り実施することができたため、「a」と判断した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定を上回った為	長野委員	a	協力家庭の数は目標を大きく上回る参加を得ることが出来た。
河西委員	a-	岩槻区の極端なへこみが気になります。	橋本委員	a	公共施設以上に、家庭の数値達成が出来たので加点評価しました。
木島委員	a	公共施設達成率237%(実績71/目標30)、家庭達成率228%(実績1,139/目標500)を評価	廣瀬委員	a	一貫して当初目標を上回る実績が出ており、ニーズに合致した政策であったと評価できる。
栗原委員	a	—	福崎委員	a+	事業に参加しやすくする工夫がされている点。 予想を上回る参加者は、今現在の市民のニーズや関心の高さの表れだと思われる。
須藤委員	a	1. 数値目標の大幅な超過達成を評価する 2. 家庭での取組が活発化しており、室温の上昇抑制・エアコン節約を通し、節電にも寄与大	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。今後カーテンサポーターの活動をさらに発展してもらいたい。
高木委員	a	公共施設の実施と家庭での取組が目標を大幅に上回ったため。	町田委員	a	48-4同様、家庭においても自然と親しむ機会を増やす施策として有効と考えます
高島委員	a	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	a	社会背景もあつたと思われるが、工程を大幅に上回って進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-6	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (公共施設の緑化)	4年以内	・平成24年度末までに、8施設以上の公共施設の屋上緑化・壁面緑化を実施します。 ・平成22年度末までに、未利用となっている全ての市有地から緑地化に適した土地を選定し、平成24年度末までに、選定した市有地の緑地化を実施します。	①新設予定の公共施設で屋上緑化・壁面緑化を実施 ②未利用市有地1か所を緑地化	①美園小学校等、新設の公共施設4施設を緑化 ②日進町2丁目地内の未利用市有地を緑地化 ③△既存の中学校で生徒と協働で屋上を緑化	b+	・平成23年度に予定していた目標のとおり進捗したため「b」と判断した。 ・新たな取組として生徒と協働で屋上緑化ができたことを加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りの為	長野委員	b+	既存緑化施設に対して新規に住民ボランティアグループの組織化(1か所)成功している。
河西委員	b+	目標が実行されて すばらしいと思います。まだ緑化されていない公共施設や未使用市有地があれば引き続きスピードを上げて緑化に取り組んでください。お願いします。	橋本委員	b+	内部評価に準じました。継続的な取り組みと今後も期待します。
木島委員	b+	目標通りの進捗加え、生徒との協働をプラス評価。PTAから相談を受ける姿勢、またそれを倍増プランと一体となって実施まで行なった対応は高く評価できる。これをモデルケースの一つとし、是非、他校にも積極的に広めて欲しい。	廣瀬委員	b+	生徒との協働による取り組みを加点
栗原委員	b+	昨年、スーパーアリーナの壁面を見学した際、だいぶ枯れているのが見受けられましたが、その後どうなったのでしょうか？	福崎委員	a	経緯・実績等が書かれた参考資料が、非常に簡潔で分かりやすい点。緑化事業にクラブ活動の生徒が参加できた点。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b+	目標通りの進捗状況と評価します。また、既存公共施設を生徒と共に緑化したことは加点要素となります。
高木委員	b+	目標を達成し、さらに既存の中学校で生徒と協働で屋上を緑化したため。	町田委員	b	公共施設の屋上緑化数8施設に向けて予定どおりと評価。学校での新たな取組も評価。ただし屋上緑化への緑対策としての効果には疑問。壁面緑化のように、環境教育の機会としても常に目視できる場所とは異なる。蒸散作用によるヒートアイランド抑制を目的とするならば他の方策を検討すべき
高島委員	b+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b+	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-7	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (民間建築物の緑化)	4年以内	・平成24年度末までに、創出される緑化面積を1,400㎡増やします。	・建築物緑化助成事業による緑化創出 (面積400㎡)	・★建築物緑化助成事業による緑化創出(面積335.63㎡) ・△建築物緑化助成事業制度の拡充(沿道緑化を追加)	C+	・平成23年度の数値目標を達成できなかったため「c」と判断した。 ・市街地の緑化推進に向けて、新たな取組を開始することを加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	目標を下回った為	長野委員	C+	緑化創出面積は目標に届かず。新規助成制度は加点要素。
河西委員	b+	48全体の流れをみると緑化へスピードは上がっている所以H24は目標を上回れると期待します。	橋本委員	C	昨年に続いて目標未達の点からC評価にしました。48の事業全体のシナジー効果をぜひ高めてほしい。
木島委員	C+	達成率84%(実績335㎡/目標400㎡)のため未達。二年連続の未達ではあるが、目標達成のために新たな取り組みを開始し制度化したことは評価できる。その分をプラス評価。	廣瀬委員	C+	沿道緑化の推進制度を追加したことにより加点。
栗原委員	C+	—	福崎委員	b-	H21年度の実績があるため、当初目標はクリアしている。反面、当年度目標を下回った点。
須藤委員	C+	民間事業所等に対し、本事業の趣旨徹底を図る必要あり。(ポスター、チラシ等)	星野委員	C	目標に達していないと評価しました。
高木委員	C+	目標値を下回ったが、沿道緑化を追加したため。イベント等でパネル展示等を行い申請件数を増やした点が良い。	町田委員	C+	建築物の助成事業が予定目標値を下回っていることの評価。ただし、屋上緑化助成には疑問があるため目標数値を下回ってもプラス評価とした。
高島委員	C+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	48-8	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどりの倍増プロジェクト」を実施します。 (花と緑でいっぱい・区の花の制定)	4年以内	・平成23年度から、市内全ての駅・駅周辺及び主要な観光スポットなどを区民等と協働して「花や緑」でいっぱいにします。 ・平成23年5月頃に、市制10周年を記念して、全10区役所において、区の緑化推進のシンボルフラワーとして、「区の花」を発表します。	①花と緑のまちづくり推進事業を順次、実施 ②市制10周年記念事業等で区の花を発表	①花と緑のまちづくり推進事業を10区で実施(新規15か所) ②区の花デザインを作成し、市制10周年記念事業で発表	b	平成23年度の目標、取り組み内容、工程表のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	シルバー世代やボランティアの力など活用してさいたま市の花の街ができていくとステキです。区の花を「知っている」から「好き」になっていけばもっとステキな街になります。住民票改ざん防止やバイクのナンバープレートもいいアイデアだと思います。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	区の花の決定がどの程度浸透し、どのような効果を達成していくか注目が必要
栗原委員	b	貴重な予算と人手を使って制定した「区の花」ですが、今のところ、通り一遍の使い方しかされていないように思いますので、更なる有効活用を希望します。	福崎委員	b+	事業への市民参加を積極的に呼びかけている点。 区の花選定後のPR事業が色々報告された点。今後の継続に期待。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b+	花デザインを作成し活用した点、「エコキャップアート」を小学生と作成し、PRを行なった点を加点評価した。	町田委員	b	予定通りの数での実施と評価。地域住民に積極的に働きかけ、住民みずからが積極的に関与できるような施策としていることに評価。区の花のシールやキャラクターシールは市に愛着を持ついいツールと思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b+	原付バイクのナンバープレートに区の花のシンボルマークを入れるなど、訴求力のある周知啓発が展開できている。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-1	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (見沼基本計画の策定)	4年以内	・平成22年度末までに、見沼たんぼを農業生産の場として維持しつつ、市民が自然とふれあい、憩える場所とするため、本市として初めて、見沼たんぼに関する各部門の諸施策を体系的に取りまとめた実効性のある（仮称）見沼基本計画を策定します。 ・平成23年度末までに、斜面林等の保全などのアクションプランを策定します。 ・平成24年度末までに、見沼代用水と一体となった斜面林を開放し、散策路や休憩施設の整備を行うなど、水と緑に親しむことができる市民の憩いの場所を3か所整備します。	①見沼田圃基本計画アクションプランの策定 ②水と緑に親しむことができる市民の憩いの場所の整備1ヶ所 ③市民協働による斜面林保全活動の実施	①見沼田圃基本計画アクションプランを策定 ②水と緑に親しむことができる市民の憩いの場所を1ヶ所整備 ③市民協働による斜面林保全活動の実施	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表などのおり進捗したので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの成果をあげている。
河西委員	b	見沼区の見沼たんぼの課を越えた横断的なアクションプランが今後各区のロールモデルになるといいです。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	市民の声が活かされていると思われるが、取り組み状況に報告されていない点。
須藤委員	b	1. 貴重な歴史・自然遺産であり、基本計画の確実な履行が必須。 2. 市民（含地主）の保全に向けた理解と広範な協働が計画達成に不可欠である。	星野委員	b	目標通りの進捗状況と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	アクションプランの策定、憩いの場所の設置など予定どおりの進捗と評価。 都市と自然が共存するさいたま市の特徴として掲げふるさとづくりのひとつとしても活用していただきたい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。 プランづくりとパイロット的な取り組みの展開が本事業の内実であることから、平成24年度に目標を達成した上で、平成25年度以降の継続的な取り組みが見えてくることが求められる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-2	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (歴史的遺産・自然環境の活用)	4年以内	・平成24年度末までに、市民が見沼たんぼの「歴史」や「豊かな自然環境」を感じ、憩える場所として見沼代用水や見沼通船堀沿いに休憩施設を5か所増やします。 ・平成24年度末までに、見沼通船堀の開門（注1）や鈴木家住宅（注2）の適切な保存を行うとともに、周辺の文化財への案内看板や休憩施設を設置し、憩える場所として歴史的遺産の活用を図ります。	①ワークショップによる休憩施設設置場所等の検討 ②休憩施設2か所設置 ③見沼通船堀堤塘等の修繕 ④文化財案内看板1基設置	①ワークショップ3回開催 ②休憩施設を3か所設置 ③見沼通船堀堤塘等修繕12か所 ④文化財案内看板1基設置、9基改修	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表などのとおり進捗したので「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表に従っての成果をあげている。
河西委員	b	憩いの場所、休憩ベンチ、沼地湿地特有の腐敗劣化が維持管理の予算を 超えないように注意して設置ください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b+	目標以上の結果となったことを評価。	福崎委員	b+	市民の反響が良かった点。 桜の時期に合わせた設置も評価。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b+	概ね目標通りの進捗と評価します。また、休憩施設の市民と協働した手作りに加算要素とします。
高木委員	b+	目標を上回り、ベンチ・テーブルを設置した点を加算評価した。	町田委員	b+	休憩場所1箇所増設、案内看板の改修など加算評価とする。 PR活動を充実させていっていただきたい。
高島委員	b+	工程表どおりに進捗していると判断した。②について、目標を上回っているので+とした。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-4	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (市民農園の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、見沼たんぼ内の市民農園を3か所から9か所に増やすとともに、市内全域の市民農園を40か所から72か所に増やします。	①市内全域の市民農園開設 133か所 ②うち見沼たんぼ内 2か所	①市民農園開設 16か所(閉園数4か所) ②うち見沼たんぼ内 3か所	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの進捗である。
河西委員	b	利用者や他の市民のモラルの問題がまだまだ出ると思いますが、市民農園は増やしてほしいです。ルールや高いモラルは後付で浸透していくとおもいます。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	市民農園の開設は目標以上の数となっているが、前年度までの遅れを取り戻したものと評価し、加点はしなかった。
栗原委員	b	閉園の数が気になります。いたずらな新規開設ではなく、既存園の統廃合や管理運営の再検討などが必要では？	福崎委員	a	参考資料にて、課題抽出とその検討・対応状況の報告がされている点。
須藤委員	b+	市民のニーズが高い事業である。数値目標の超過達成と高利用率をキープしている点をプラス評価。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b-	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	市民農園開設数の増加に伴う加点評価。 市民農園の開設数はもっと目標値を上げててもニーズがあると感じている。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	見沼田圃内外を合わせ、概ね工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-5	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (東宮下調節池の広場整備)	4年以内	・平成24年度末までに、東宮下調節池を、遊水機能を保ちつつ、市民が水と親しみ憩える場所として整備します。	・東宮下調節池整備工事の推進	・東宮下調節池工事を推進	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表のとおり実施しているため、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの取り組み内容である。
河西委員	b	引き続き計画に従ってに進めてください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	工事遅延は震災の影響もあるかと思われる。H24年度開設にこだわるより、工事を終えてから市民へ開放する方がよいと思うため。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	予定どおりの進捗状況と判断します。このようなシンボリックな整備もふるさとづくりには必要だと思います。 工事費のみで全体で11億もの事業です。25歳以上の納税人口100万市民のひとりひとりが1100円負担する事業として有意義なものにするとともに、華美にならないことを期待します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
環境・まちづくり	49-6	・平成24年度末までに、現存の水路敷などを活用し、市民が水と親しみ憩える場所を2か所整備します。 (高沼用水路の整備)	4年以内	・平成24年度末までに、現存の水路敷などを活用し、市民が水と親しみ憩える場所を2か所整備します。	①バイパス放流管の整備 ②高沼用水路の実施設計	①バイパス放流管の工事着手 ②実施設計業務を発注	C	・平成23年度の数値目標及び期日目標に遅れはあるが、実現に向けて実施しているため「c」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	予定が遅れた事による	長野委員	C	工程表上の作業目標からの遅れがみられる。
河西委員	b-	引き続き計画に従ってに進めてください。	橋本委員	C	内部評価に準じました。継続的な取り組みと今後も期待します。
木島委員	C-	単年度目標が未達。かつ、昨年度も一部未達(工程表では実施設計終了予定だったが、実際は終了せず)のプランであり、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	C	遅れてはいるが進捗はしている。
栗原委員	C	—	福崎委員	C-	目標も報告も、詳細が分からない点。実際にどの程度遅れが出ているのか、よく掴めない。
須藤委員	C+	工程期日に遅れはあるが、実現に向けたステップを踏んでいるためプラス評価とした	星野委員	C	進捗状況が遅れてると判断し、「c」評価としました。
高木委員	C	目標に遅れがあるため。遅れている理由や取組状況が具体性に欠ける。	町田委員	C-	今の進捗で2箇所の整備が可能なのか疑問。建物の屋上緑化などように直接目視できない施策より、直接目に触れ、身近に感じる緑の施策の方が重要と考える。水を感じる事ができるものとしての整備を期待します。これらの施設を有効活用することを期待します。
高島委員	C	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	C+	実施設計には至らなかったが、実施設計を発注の上、市民との協議を慎重に進めているので加点要素とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	53-1	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。 (セーフティネットの構築)	すぐ	・平成22年度から、全10区の福祉事務所に自立生活支援相談窓口を設置し、自立生活支援員を中心としたハローワークなどの関係支援機関などからなるチームを結成し、自立生活のための総合的支援に取り組みます。 ・平成24年度末までに、就労可能な生活保護受給者を対象とした支援により、就労した人数を平成20年度の108人から倍増の216人にします。	・支援による就労人数270人	・☆支援による就労人数354人 ・△ジョブスポットの設置	a+	・平成23年度を取組状況、工程表のとおり進捗し、実績が数値目標を大きく上回ったので「a」と判断し、就労支援体制の強化を図ったことから加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標を上回った事による	長野委員	a	目標を上回る就労実績をあげている。 ※平成23年度目標設定時と、ジョブスポット設置にむけた協定書締結を行うことを市の方針として決めた時期について、確認させてください。
河西委員	a	就労者数の飛躍的な伸びは取り組みのすばらしさの表れと思いますが、それを上回る社会情勢の厳しさ。紹介の件数が多くても就職までつながる数が乏しいのが残念です。適正の判断は重要と思います。就職希望者におもねるわけではなて、そういった人が入り口で躓かないようにすることも大切です。機会や経済的支援を増やすことも大切ですが。	橋本委員	a	内部評価に準じました。継続的な取り組みと今後も期待します。
木島委員	a	達成率131%(実績355人/目標270人)を評価	廣瀬委員	a	目標以上の数字が出ていることは評価できるが、ニーズも爆発している状況下にあるので、加点というよりも実施が必要に追いついていないという認識をして欲しい。
栗原委員	a+	—	福崎委員	a	社会保護の事業のため、今後の事業拡大が懸念される点。 「雇用・失業情勢」改善のためのプラン54の一連の事業との連携をもってほしい。個票に書かれた課題には、当該事業だけでは当然に対応できない。
須藤委員	a	数値目標が大幅超過達成となったこと、各種の相談機能の充実が図られていることを評価する。	星野委員	a+	目標を上回る進捗状況と評価します。また、ジョブスポット開設は加点要素です。
高木委員	a+	支援による就労人数が目標を大幅に上回り、さらにジョブスポットの設置を行なったため。	町田委員	a	予定どおりの進捗と判断します。 就労に関する問題は、働き手の意欲やなんらかの心の問題を抱えている場合があります。業務斡旋に加えてカウンセリングの充実や雇用側の理解と協力体制を求めているいただきたい。
高島委員	a+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a+	生活保護世帯、生活保護人員ともに増加しているが、支援者数と就労・増収した人員も大幅に伸びている(比率もアップ)。 厳しい社会状況のなか、積極的に施策を進めていると評価する。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	53-2	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。 (ステップアップの取組)	すぐ	・平成21年度から、若年者向け就職支援セミナーを年2回から4回に増やします。 ・平成21年度から、新たにキャリア・コンサルティングを週2日実施します。 ・平成22年度から、新たに市内企業での就業体験事業を4社8人を対象に実施します。 ・平成21年度中に、母子家庭の母親の就業支援を拡充します。	①若年者向け就職支援セミナーを年8回実施 ②若年者向け就業体験事業を市内企業(原則)10社で実施 ③若年者向け合同面接会を実施し、実施後に事業効果を検証	①☆若年者向け就職支援セミナーを年9回実施 ②☆若年者向け就業体験事業を市内企業を中心に19社32人で実施 ③☆若年者向け合同面接会を実施。延べ315人が面接し、20人が採用	a	・平成23年度の数値目標を上回って実施したことから、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	就業目標を設定した事に対して。	長野委員	a	就労体験への協力企業は目標を上回り、合同面接会も一定の成果をあげている。
河西委員	a	技能や資格の取得のための支援が効果を上げている。引き続き支援の継続をお願いします。	橋本委員	a	内部評価に準じました。
木島委員	a-	セミナーや就業体験実施がプラン目標を上回っていることを評価。 ただ、母子家庭の母親の就業支援について、単年度目標が設定されておらず、かつ支援を行なったことが成果に結びついているか確認できないためマイナス評価。	廣瀬委員	a	目標値以上の実績が出ている。
栗原委員	a	—	福崎委員	b+	キャリアコンサルティング利用者など、各事業の参加者数の目標値が示されていない点。評価に加えられない。
須藤委員	a	事業の各項目につき、目標を超過達成した点を評価する。	星野委員	a	目標を上回って実施したことから「a」としました。
高木委員	a	目標を上回って達成したため。	町田委員	a-	若年者向け就職支援セミナー、就業体験事業など、予定開催数を上回ったことを評価。 子どもたちが思春期に経験することが将来の就労や生き方に大きく関わります。直接的な問題も大切ですがその背景にある根本的な問題からの解決にとりこんでいただきたい。
高島委員	a+	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-1	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 （ものづくり企業支援事業）	4年以内	・平成23年度中に、市内のものづくり企業の活性化と経営の安定化を図るため、事業者のニーズに対応した新たな支援制度を確立します。	①ものづくり企業データブックを大規模展示会で配布 ②産業創造財団で「販路開拓支援事業補助金」を実施 ③企業間連携を促進するための勉強会や先進地域との交流会を実施	①インターネットビジョン（総来場者84千人の見本市：1月）で配布（約400部） ②補助実績3件 ③講演会1回・研究交流会2回開催 ▼先進地域との交流を実現できず。	b-	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しましたが、企業間連携の促進にあたっては、他の先進地域との交流を実現できなかったため減点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b-	先進地域との交流できなかった事により。	長野委員	b-	内部評価は妥当と考える。
河西委員	b	支えあいの精神が浸透するまで情報提供や働きかけを。民間の経営利益にかかわるのですがwinwin組み合わせもあるはずなので。	橋本委員	b-	データブック等の配布や補助等積極的な取り組みと評価しました。厳しい環境下で施策としての成果を評価すべき。
木島委員	b	活動結果は目標通りで評価するが、今後は活動の結果どのような成果を得るか、ということを目指して欲しい。	廣瀬委員	b-	内部評価と同じ
栗原委員	b-	8万4千人の来場者に対して配布400部、という数字が評価出来るのかが疑問です。	福崎委員	b-	企業間、地域間交流の推進に、今後も期待。
須藤委員	b-	先進地域との交流未実現をマイナス評価	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗ですが、先進地域との交流が出来なかった為、減点要素があります。
高木委員	b-	先進地域との交流を実現できなかったため。	町田委員	b-	ものづくり企業データブックの配布などや支援補助をするにも目標値がしめされていないため評価に迷う。やった、検討した。配布しただけではマイナス評価。どの程度雇用向上したのかも不明。産業雇用の拡大にはこのプロジェクトは重要なので検討をお願いしたい。
高島委員	b-	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	b-	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-2	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (テクニカルブランド企業認証事業)	4年以内	・平成24年度末までに、さいたま市テクニカルブランド企業の認証数を平成20年度の13社から22社増やし、35社とします。	①企業認証数 5社 ②企業支援数 35社	①△企業認証数 12社 ②△企業支援数 42社	a	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等を上回り進捗したので、「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	目標を上回った事による。(尚状況は判断出来ない)	長野委員	b+	目標数を上回る認証・支援数である。 ◆各企業に対する支援内容と、それが具体的にどのように競争力強化に結びついているのか、示されることが望ましい。
河西委員	a	認証した企業がさいたま市の税収を押し上げるようにさらに成長してほしいです。	橋本委員	b+	積極的な取り組みと評価しました。テクニカルブランド等施策としての成果を評価すべき。
木島委員	a	企業認証数の達成率240%(実績12/目標5)を評価	廣瀬委員	b+	行政のアウトプットとしては目標以上の実績と言えるが、アウトカムの検証がまだ見えてこないため、現段階ではbの加点とした。
栗原委員	a	—	福崎委員	a-	この事業による、雇用情勢への直接・間接的な効果が図れる仕組みも検討されたい。
須藤委員	a	数値目標の大幅超過達成を評価する	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	企業認証数と企業支援数が目標を上回って達成したため。	町田委員	b	企業認定数を増やすことが、目標となるのかは疑問。一定の基準があってその達成努力は企業側にある。数を増やすだけであれば認証ハードルを下げるのみで足りる。支援を自治体ができることはある程度は必要だが限界もある。一方で、テクニカルブランドの認定を受けた企業が、業界のリーダーとして技術開発・経営強化・人材育成などの「競争力向上支援」を実施してもらうことで小さな企業の技術支援につなげることを目的とすることは、活性化のためにもいいことだと思う。行政支援とのバランスが重要。慎重にお願いしたい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	工程を大幅に上回った。 ただし、認証の乱発とならないよう、認証後のフォロー(支援の充実)を求む。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-5	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (新規就農者支援事業)	4年以内	・平成23年度末までに、新規就農者が参入しやすい農業環境を整備するための実施方針を策定します。 ・平成24年度中に、新規就農者数を20人にします。	①就農相談会1回実施 ②新規就農者数10名 ③就農、雇用促進方針の策定 ④ファーマーズマーケット開催	①就農相談会2回実施 ②☆新規就農者数18名 ③就農、雇用方針の策定 ④新たな農産物直売の実施	a	・平成23年度の取組状況、工程表のとおり進捗し、実績が数値目標を上回ったので「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	工程表の通りと判断	長野委員	a	目標を上回る新規就農者を得た。
河西委員	a	さらに岩槻区など兼業農家が廃業しないように農業経営に魅力を感じるような働きかけも必要です。	橋本委員	b+	内部評価に準じました。よりスピーディーな農業環境整備への取り組みを実現してほしい。
木島委員	a-	新規就農者達成率180%(実績18/目標10)を評価。プラン目標が20人であるため、H23年度はこの目標設定でも評価するが、本来は前年度の達成人数(19人)を踏まえて目標を前倒して達成してもらいたい案件と考え、マイナス評価	廣瀬委員	a	新規就農者数が目標を大幅に上回っている。
栗原委員	a	新規就農と合わせ、統廃合や組織的な運営等のサポートも必要なのでは？	福崎委員	a	課題の報告が簡潔で的確な点。
須藤委員	a	1. 数値目標の大幅超過達成を評価する 2. ファーマーズマーケットは単発ではなく、継続して開催すべし。また農業団体等関係者との連携も不可欠。	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	新規就農者数が目標を大幅に上回ったため。	町田委員	a-	予定数を上回っていると評価。 食と農に興を味を持ち支援してもらおう一般市民の総数を増加してもらいたいと願う。環境の点からも農の重要性を問う視点での施策としてもらいたい。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	新規就農者数が大きく目標を上回った。ただし、東日本大震災の被災地からの避難・就農者がいるのではないかと？

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-6	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (事業所内保育施設推進)	4年以内	・平成23年度末までに、複数の企業等の集合体による事業所内保育施設への新たな支援制度を構築します。	①施設整備補助(国、県の補助を含む)の活用による、新規開設1施設 ②新たな支援制度の構築に向け、積極的な広報活動	①1施設開設 ②さいたま商工会議所会員へのPR	b	施設整備補助を活用し1施設開設され、目標は達している。また、事業者の現況、ニーズを聴取し支援体制構築に向けた活動、施設整備費等のPRを行ったことから、「b」とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	事業所内保育施設は明らかにニーズがあるので引き続き推進PRして事業者の相談にも応じて開設につなげてください。	橋本委員	b-	より迅速かつ調整で事業を推進してほしいと思います。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね目標値通りの実績。
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	新たな支援制度の確立より、現状維持の方が良いとした理由の報告がない点。
須藤委員	b	概ね工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	1箇所の開設数は予定どおりだが、数としては少ない。今後の増加に期待する。企業内保育所の充実、小さな子どもを持つ親にとっての雇用創出になる。市内では一般的となるよう積極的に実施することで、さいたま市のイメージアップにもつながると思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-7	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (介護福祉士資格取得支援)	4年以内	・市内の介護保険施設等に勤務している人材の育成・定着を支援するため、介護福祉士の資格取得を支援します。 ・平成21年度は、資格取得対策講座を実施し、受講者を筆記試験対策講座200人、実技試験対策介護技術講習80人とします。 ・平成22、23年度は、実技試験免除の講座を実施し、受講者を160人とします。	・受講者160人	・▼受講者151人はほぼ目標に達しているが、市内の介護保険施設等勤務者数把握等に課題がある	b-	交付決定者は、160人となり目標を達成したが、交付決定辞退者が出るなど助成金交付手続きに問題があったため減点評価とした。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	業務内容から判断すると目標通りとする	長野委員	b-	内部評価の内容は妥当と考える。
河西委員	b	まだまだ人材が不足している分野なのでもっと介護士育成の人数は増やしてもいいのではないのでしょうか。	橋本委員	b-	内部評価に準じました。
木島委員	c-	人数としては僅かだが、二年連続の未達のためc評価。かつ、昨年度も辞退者のために未達だった案件で、評価委員会が提言した「遅延しているものに対する対策」が行えていないためマイナス評価。	廣瀬委員	b-	実施手続に改善の余地がある。
栗原委員	b-	—	福崎委員	b	目標未達の要因を把握されている点。
須藤委員	b-	数値目標に未達があること、並びに交付決定辞退者が3割弱に達する点をマイナス評価。	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗と判断しますが、助成金手続きに問題があった為、減点評価とします。
高木委員	b-	交付決定辞退者の把握を早期に出来ず、助成金交付手続きに問題があったため。	町田委員	b	ほぼ予定どおりの目標数値達成と評価。交付金辞退はマイナスにあたらぬとする。体験して自分に適性がないと判断したからではないのか。高齢化社会の到来により介護福祉士はさらなるニーズが必要となる。各施設に必要な数が配置されることに期待する。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。交付辞退者が多数いるがどんな理由であるのか？	三浦委員	b-	交付決定後に辞退者が出るたびに追加決定をしているのは改善の必要を感じる。また、最終的には受講後に市内施設への就労につながる必要があり、数値目標の立て方にも工夫が求められる。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c , d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-8	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (ホームヘルパー2級資格取得支援)	4年以内	・平成24年度末までに、介護職の入口とも言えるホームヘルパー2級の有資格者を新たに600人確保します。	①利用者200人 ②事業所への周知	①利用者194人 ②事業所への周知	b	補助制度の周知については概ね予定どおり進捗し、補助制度利用者が194人に達した。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	業務内容から判断すると目標通りとする	長野委員	b	概ね工程表通りである。
河西委員	b	助成金が不足になっても、それでも補助制度に力を入れてください。求人が多いことは変わらないのですから。資格を持って従事するほうが離職の低下になると思います。	橋本委員	b	概ね事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b-	実ニーズがどの程度なのか把握されているか。類型600人には到達しないのではないかと。
栗原委員	b	—	福崎委員	b	次年度の利用者増に期待。周知の効果が現れてくると思われる。
須藤委員	b	1. 概ね工程表どおりと判断する。 2. 制度周知の方法に工夫が必要。	星野委員	b-	概ね目標通りの進捗と評価しますが、若干目標値を下回った原因を明確化していない為、減点評価とします。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	c	目標数値の全体からは予定通りとはいえないと判断。 制度の周知と共に、身近なところにヘルパーさんがいることは安心感につながる。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-9	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (福祉介護人材の養成確保)	4年以内	・平成24年度末までに、地域福祉情報・研修センターにおいて、サービス従事者の資質向上、交流や就業促進を目的とした研修を17講座実施します。 ・サービス従事者の確保・定着を目指し、国に対して介護報酬の引上げを毎年要望します。	①研修(8講座)の実施 ②福祉情報の発信 ③介護報酬の引上げに関する国への要望活動	①研修(8講座)の実施 ②福祉情報の発信 ③介護報酬の引上げに関する国への要望活動(5回)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと思うが、現場の社会福祉協議会から見た意見も聴いて判断すべきと思う。	長野委員	b	工程表通りの取り組みである。
河西委員	b	求人増のお仕事ですから人材 育成のスピードアップをお願いします。介護報酬引き上げをお願いします。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	工程表通りの進捗
栗原委員	b	—	福崎委員	b	課題に書かれた相反効果について、もっともだと思う。市としてはどのように取り組む姿勢なのか、示してほしい(事前質問済み)。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	情報発信では、どのようなことを実施したかが大切です。福祉介護人材の養成を行政が行うことで人々への直接的な周知になります。人材確保を早期に行うことで効果的な啓発活動に繋げていただきたい。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-10	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (ものづくり人材支援事業)	4年以内	・平成23年度中に、ものづくり人材育成の充実を図るため、市内企業や試験研究機関などと連携し、優秀な産業人材を市内企業へと輩出する新たな仕組みを構築します。	①市内工業高校生を対象とした「技術人材の高度化支援事業」を実施 ②市内工業高校生を対象にしたインターンシップ、デュアルシステムを実施 ③若年者向け就業体験事業の実施	①家庭用ソーラーパネル設置研修を実施(2校20人) ②企業現場見学会・インターンシップ(2校200人)、デュアルシステム(1校2人)を実施 ③新卒未就職者等人材育成事業の実施(16社25人)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断	長野委員	b	工程表通りの内容である。
河西委員	b	引き続き若い技術者が育つように支援してください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	—
栗原委員	b	—	福崎委員	b	今後、事業の継続にあたり、今期の結果をふまえて、数値目標を設定されたい。
須藤委員	b	1. 概ね工程表どおりの進捗と判断する。 2. 23年度、51,146千円の事業費を計上しており、もう少し多様な事業が可能なのではないか。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b-	各施策の実施を目標にしているためやったかやらなかったかという指標では予定どおりの実施と判断。具体的な数値が示されていないためマイナス評価。 優秀な人材を市内企業に就労させるためにも、若人を対象にした技術研修は、将来を考えるきっかけとなる。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	内部評価と同様の評価とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会：6月29日（金）開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	54-11	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (マッチング事業)	4年以内	・平成24年度末までに、キャリアサポート事業、雇用マッチング促進事業などを新たに実施することにより、市が実施する就職支援事業による支援者数を平成20年度の63人から337人増やし、400人にします。	・就職支援事業による就職支援者数2,000人	・☆就職支援事業による就職支援者数3,678人	a	・平成23年度の取組状況、工程表のとおり進捗し、実績が数値目標を大きく上回ったので「a」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	a	予定通りと判断 (就職支援をした事のみ)	長野委員	a	目標を上回る対象者に就職支援を実施。また、昨年を上回る新規就労実績も報告されている。
河西委員	a	引き続き計画に従ってに進めてください。大切な貴重なマンパワーです。育成、支援、成長を期待します。	橋本委員	a	内部評価に準じました。より効果的な事業展開を期待します。
木島委員	a+	新規就労者達成率184%(実績3,678人/目標2,000人)を評価。かつプラン目標(400人)を大幅に上回っていることは取り組みの成果と考えて加点。	廣瀬委員	a	支援実績が目標以上に上がっているが、雇用マッチング促進事業の就職者数が22年度よりも減っていることは懸念材料である。
栗原委員	a	—	福崎委員	a	利用者増に対して、支援体制拡充は評価できる。
須藤委員	a	市独自で多様な取組を行っており、目標を大幅に上回る数値実績となっている点を評価する。	星野委員	a	目標を上回る進捗状況と評価します。
高木委員	a	就職支援事業による就職支援者数が目標を大きく上回ったため。	町田委員	a	支援者数の増加が目標数値の1.5倍であることよりプラス評価。 若人から子育て世代、そして中高年までの再就職支援セミナーなどの充実を期待する。 キャリアアップのための支援、スキルアップ講座等の実施などへの応援事業は充実させるべき。
高島委員	a	内部評価と同じ理由です。	三浦委員	a	目標を上回った。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c , d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	56	起業家支援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。	4年以内	・平成24年度末までに、創業ベンチャーサポート塾の開設などにより、創業件数を118件増やし、累積創業件数92件を210件にします。 ・平成23年度から、創業者を発掘する創業応援事業を開始します。	①創業件数50件 ②ニュービジネス大賞応募件数50件 ③創業ベンチャーサポート塾の継続実施 ④インキュベーション事業の拡充	①★創業件数25件 ②△ニュービジネス大賞応募件数58件 ③創業ベンチャーサポート塾の継続実施 ④インキュベーション事業の拡充	C+	・平成23年度の実績が数値目標を大きく下回ったので「c」と判断し、ニュービジネス大賞の応募件数は目標を上回ったので加点評価しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	C	時代的に難しい為	長野委員	C	支援から創業に結び付いた件数は目標に届かず。
河西委員	C	ニュービジネスの継続、また創業者へは成長のサポートも平行して取り組んでください。	橋本委員	C	内部評価に準じました。効率的な取り組み等目標達成に向けた注視すべき取り組みが判断できなかったため、加点はなし。
木島委員	C	創業件数が未達(実績25/目標50)。	廣瀬委員	C	創業件数が目標値を大幅に下回っている。
栗原委員	C+	—	福崎委員	C	創業件数に対して、支援事業利用者数の報告がない点。
須藤委員	C+	金融機関、ファンド等、創業に関係する民間企業・団体とのパイプ役となる機能も検討に値する。	星野委員	C	目標を下回る評価とします。
高木委員	C+	創業件数が目標値を大幅に下回ったため。PR強化により、ニュービジネス大賞応募件数が目標を上回ったため加点評価した。	町田委員	C	創業件数が目標50%であることの評価。 創業当初はさまざまなアフターフォローが大切でもありこの点についてのサポートが重要。夢と希望のもてる社会を目的にして、起業人への育成にとりくんでもらいたい。少しでも多くの人々が希望をもち創業するような人事が育つことを期待します。
高島委員	C	①が大幅に目標未達だが、他の項目は目標どおり。全体としては実現に向けて実施していると判断しCとした。	三浦委員	C-	創業件数が目標の半分に留まっている。創業ベンチャーサポート塾やインキュベーション事業の拡充など、事業が想定している手は打たれているようだが、目標数を下回っていることに対する取り組みや工夫は見られない。創業アドバイザーの相談件数、派遣回数、セミナー開催数のいずれも、平成23年度を下回っていることを減点要素とする。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	57-2	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。 (コミュニティビジネス促進事業)	4年以内	・平成24年度末までに、コミュニティビジネス賞の応募件数を69件増やし、累積応募件数31件を100件にします。	①セミナーの開催1回 ②研修会の開催2回 ③コミュニティビジネス賞の応募件数20件	①△セミナーの開催2回 ②相談会の開催2回 ③▼コミュニティビジネス賞の応募件数19件(累計82件)	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	予定通りと判断(アイデア募集?)	長野委員	b	概ね工程表通りである。
河西委員	b	コミュニティビジネスのいいアイデアが実現するように支援は継続してください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね工程表通り
栗原委員	b	—	福崎委員	b	参加者の利便性を考慮し、開催した点。
須藤委員	b	全般的に活動が低調。予算措置も含め、もう少し腰を入れてもよい事業と考える。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	セミナー開催、懇談会の開催など予定どおりの数値実現と判断。 地域密着型の企業形態としての普及啓発活動は今後はより重要になると考える。企業の役割としての社会貢献に期待する。
高島委員	b	おおむね工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。	4年以内	・平成23年度から、研究開発を実施する市内中小企業者等向けの融資制度を創設します。 ・平成22年度から、既存の創業支援資金融資制度について、融資限度額の見直しや条件緩和を行います。	①東日本大震災復興緊急保証を活用するなど融資制度の拡充 ②東日本大震災復興緊急保証の円滑な認定事務	①緊急特別資金融資（電力危機対応・年末対応）やセーフティネット資金融資（復興緊急対応）の融資制度を実施した。 ②関係機関と調整を図り、東日本大震災復興緊急保証の円滑な認定事務を図った。	b	・平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	市民への広報が不足であり、内容も理解されてないと思う。	長野委員	b	工程表通りの取り組みである。
河西委員	b	各機関との連携をはかり支援を継続してください。	橋本委員	b	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	b	目標通りの進捗	廣瀬委員	b	概ね工程表通り
栗原委員	b	—	福崎委員	b-	課題の検討について、報告が少ない点。
須藤委員	b	工程表どおりの進捗と判断する	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	融資制度が制定され、具体的な利率も制定されたため予定どおりと評価します。中小企業が、研究開発や新たな知見を見出すことこそ、大企業に対抗できる戦略です。研究や情報を得るためにも財源への支援が有効に使用されることに期待します。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外事業（第4回委員会:6月29日(金)開催）

宣言分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H23年度 主な目標等	H23年度主な実績 進捗度 a の要素 進捗度 c, d の要素 取組に何らかの工夫等あり 上記 と逆の場合	H23年度達成度（内部評価）	
							達成度	評価理由
経済・雇用	59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度から、市内企業向けCSR活動をホームページで公表します。 平成22年度から、市内企業を対象としたCSRセミナーを開催します。 平成23年度中に、本市独自のCSR活動認証制度を創設します。 	<ul style="list-style-type: none"> (財)地方自治研究機構と共同で、認証制度創設に向けた調査研究事業を実施する(平成23年7月から3回程度の検討委員会開催等 	①(仮称)さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度(素案)の策定 ②CSRセミナー2012の開催(3月)	b	平成23年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したため、「b」と判断しました。

委員名	達成度	「達成度」の評価理由等	委員名	達成度	「達成度」の評価理由等
伊藤委員	b	市民への広報が不足であり、内容も理解されてないと思う。	長野委員	b	工程表に沿った内容と言える。
河西委員	b	引き続きCSR活動の普及促進の働きかけをしてください。	橋本委員	b	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
木島委員	c	CSR活動認証制度の創設が未達	廣瀬委員	b	予定通り24年度から認証制度が動き出せる運びとなったので。
栗原委員	b	—	福崎委員	b+	調査研究費を抑えられた点。
須藤委員	b	民間の力を活用し、市の社会インフラを向上させる観点からも、本事業を活性化すべきである。	星野委員	b	概ね目標通りの進捗と評価します。
高木委員	b	工程表通り進捗したため。	町田委員	b	平成23年度の予定事業が実現したことで予定どおりと評価。 企業活動が社会に影響を及ぼす範囲を多面的に考えなおすきっかけとしてCSR事業の提案はいい機会なのだと思う。
高島委員	b	工程表どおりに進捗していると判断した。	三浦委員	b	工程通りに進捗した。